科目区分：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校），保健体育科教育法２

授業評価・授業研究報告

保健体育講座・上田敏子

１．授業の基本情報

保健体育科教育法２は，教科及び教科の指導法に関する科目であり、保健体育科教育法のうち，保健科教育について学習する授業である。授業は単独で行っており，登録学生は教育学部中等教育（保健体育）および小学校サブコースの学生計 11 名であった。

２．授業評価・授業研究の内容

授業最終日に Microsoft Forms を用いたアンケート調査を実施した。回答数は 10 名であった。シラバスにしたがって、該当内容について質問した。選択肢は「とても理解できた」「まあ理解できた」「あまり理解できなかった」「理解」できなかった」の 4 件法とした。質問項目を下記に示す。

Q1 保健の見方・考え方について
Q2 中学校保健分野における目標および内容について
Q3 高等学校科目保健における目標および内容について
Q4 保健の評価方法について
Q5 保健の様々な指導方法について

「Q1 保健の見方・考え方について」の質問では、「とても理解できた」が 6 割、「まあ理解できた」が 4 割であった。保健の見方・考え方については、授業の前半部分で（第 2 回）で取り上げた内容であった。授業では、保健の見方・考え方を具体的に考えられるようにワークを行っており、そうした活動を通して理解が深まったと考えられる。

「Q2 中学校保健分野における目標および内容について」および「Q3 高等学校科目保健における目標および内容について」の質問では、「とても理解できた」「まあ理解できた」が半々であった。中学・高等学校における保健の目標および内容について、授業では十分に指導ができていなかった可能性が考えられる。授業では、それぞれ１回分の時間数を割り当てていたが、教育法の授業であるため、保健の専門的な内容まで十分に指導することができなかった。今後は、目標・内容について学生が十分理解できるよう、中間テストを設け、知識の習得を図っていく。

次に、「Q4 保健の評価方法について」の質問では、「とても理解できた」が 6 割、「まあ理解できた」が 4 割であった。保健の評価については、工夫した評価方法について資料を配布しながら指導をしたが、十分でなかった可能性が考えられる。指導と評価の一体化や保健の評価の工夫については今後、内容を検討し、より学生にとって学びのある内容に変更していきたい。

「Q5 保健の様々な指導方法について」の質問では、「とても理解できた」が９割、「まあ理解できた」１割であった。授業では、テキストや日本学校保健会の資料や授業動画を参考にしながら、様々な保健の指導方法の工夫について演習を行った。また、ロイロノートを用いた取り組みも行った。そうした実践する機会の多さが学生の理解度の高さに影響したと考えられる。

３．まとめ

本授業では，中学校および高等学校の保健科教育について教科書（中学校・高等学校保健科教育法　改訂版，2021）を中心に授業を進めた。授業では中学・高校の保健の目標・内容の理解をはじめ，様々な指導方法について，演習を通して学ぶ活動を多く取り入れた。こうした学生主体の活動を今後も取り入れ，学生自身が教材を開発し，実践していけるようにしていきたい。

一方、知識として習得すべき事柄（保健の見方・考え方や目標、内容など）については、中間テストを設け、知識の習得を一層図っていきたい。保健についての基本的な知識は、将来の教員採用試験対策としても重要である。そうした観点からも学生指導にあたっていきたい。